

令和5年度第3回岩手県公共事業評価専門委員会

現地調査資料

■ 日 時

令和5年8月1日（火） 9：00～15：50

■ 内 容

令和5年度公共事業再評価対象事業に係る現地調査

■ 調査開始時刻及び調査対象事業

調査開始時刻	調査対象事業
10：25	(1) 地域連携道路整備事業（地域密着型）主要地方道花巻北上線黒岩（北上市）
13：05	(2) 治水施設整備事業 一級河川和賀川 大野・内ノ沢～若畑（西和賀町）

■ 資料一覧

資料 No. 1 現地調査行程表

資料 No. 2 現地調査箇所位置図及び説明資料

参考資料 令和5年度公共事業評価専門委員会現地調査対象事業の審議概要

岩手県公共事業評価専門委員会委員名簿(五十音順)

氏 名	職	専門分野	備 考
石 川 奈 緒	岩手大学理工学部 准教授	土木環境	
伊 藤 幸 男	岩手大学農学部 准教授	林政学	
小笠原 敏 記	岩手大学理工学部 教授	海岸工学	専門委員長
清 水 真 弘	清水真弘事務所 公認会計士・税理士	企業会計	
谷 本 真 佑	岩手大学理工学部 助教	交通工学	
武 藤 由 子	岩手大学農学部 准教授	農業土木	副専門委員長

(敬称略)

令和5年度公共事業評価専門委員会 現地調査行程

○開催日: 令和5年8月1日(火) 9:00~15:50

○対象事業

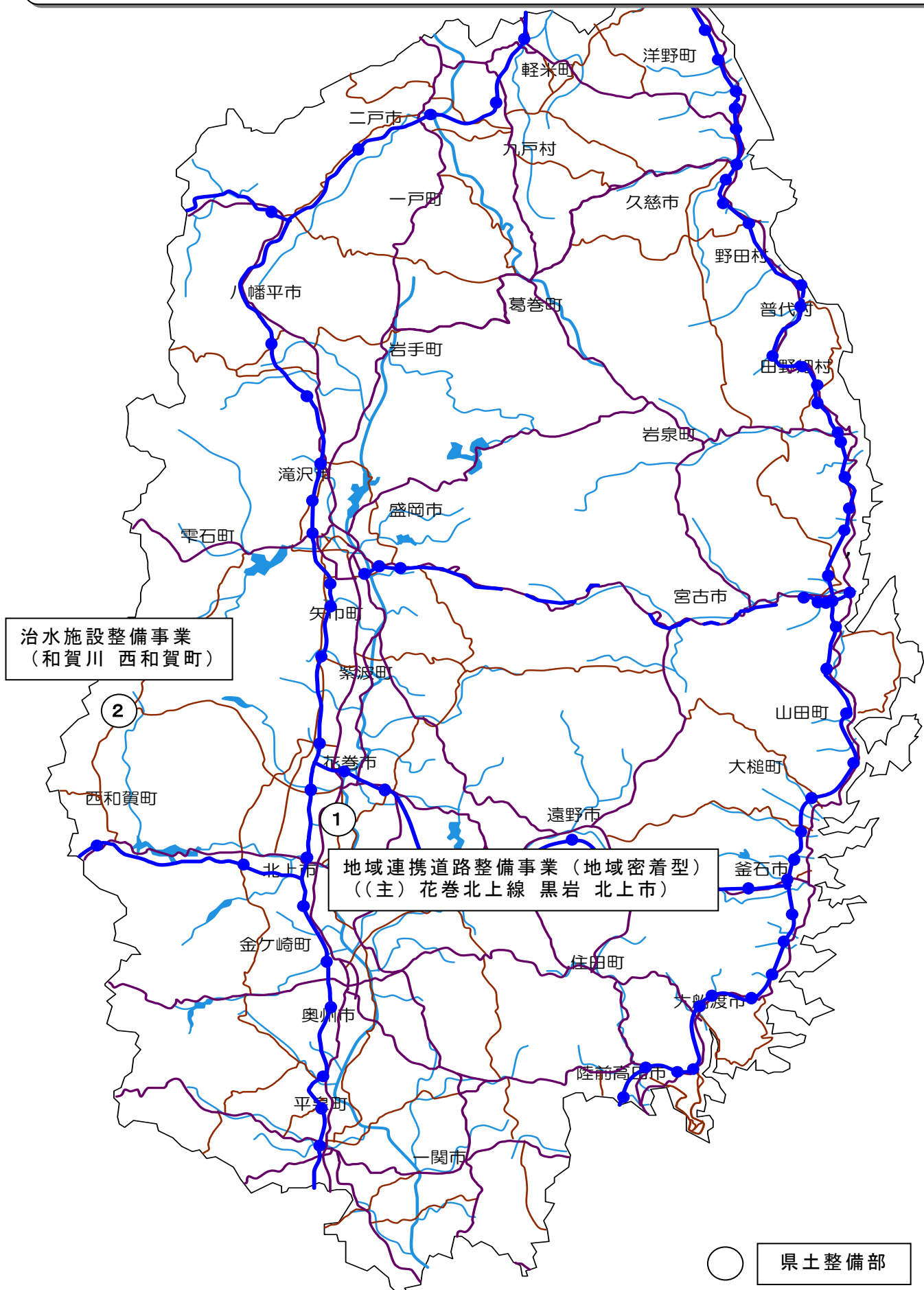
- ① 地域連携道路整備事業(地域密着型) 主要地方道花巻北上線黒岩(北上市)
 ② 治水施設整備事業 一級河川和賀川 大野・内ノ沢~若畑(西和賀町)

○行程

		0:05		0:05		0:25
	移動時間	着	移動時間	着	移動時間	着
始	0:10	9:10	1:00	10:15	0:05	10:25
県庁		盛岡駅【乗車】		傍聴者 集合場所		北上市
正面玄関前		盛岡駅西口マリオス前 1階ロータリー		くろいわ産地 直売所		現地調査
出発						黒岩
発		発		発		発
9:00		9:15		10:20		10:50
	移動時間	0:50	移動時間	0:05	移動時間	0:20
着	0:50	着	0:05	着	0:10	着
11:40		12:55		13:05		13:35
西和賀町		傍聴者 集合場所		西和賀町		西和賀町
昼食		西和賀町大野地 区公民館		現地調査		現地調査
道の駅錦秋湖 レストラン				和賀川 (大野工区)		和賀川 (弁天工区)
発		発		発		発
12:30		13:00		13:25		13:55
	移動時間	0:20	移動時間	0:05	移動時間	
着	0:10	着	0:10	着		
14:05		15:35		15:50		
西和賀町		盛岡駅【下車】		県庁		
現地調査		盛岡駅西口マリオス前 1階ロータリー		正面玄関前		
和賀川 (桐沢工区)				帰庁		
発		発		終		
14:25		15:40				

◎時間は現時点での目安であり、交通状況等により変更になる場合があります。

令和5年度第3回公共事業評価専門委員会現地調査対象地区 位置図



公共事業再評価 現地調査説明資料

地域連携道路整備事業（地域密着型）
主要地方道花巻北上線 黒岩

令和5年8月1日
県土整備部 道路建設課

事業概要① (事業目的)

○路線の位置付け

- ・北上川の東側において国道4号を補完する南北の路線
- ・事業位置南側には東陵中学校



事業概要② (事業目的)

隘路の状況

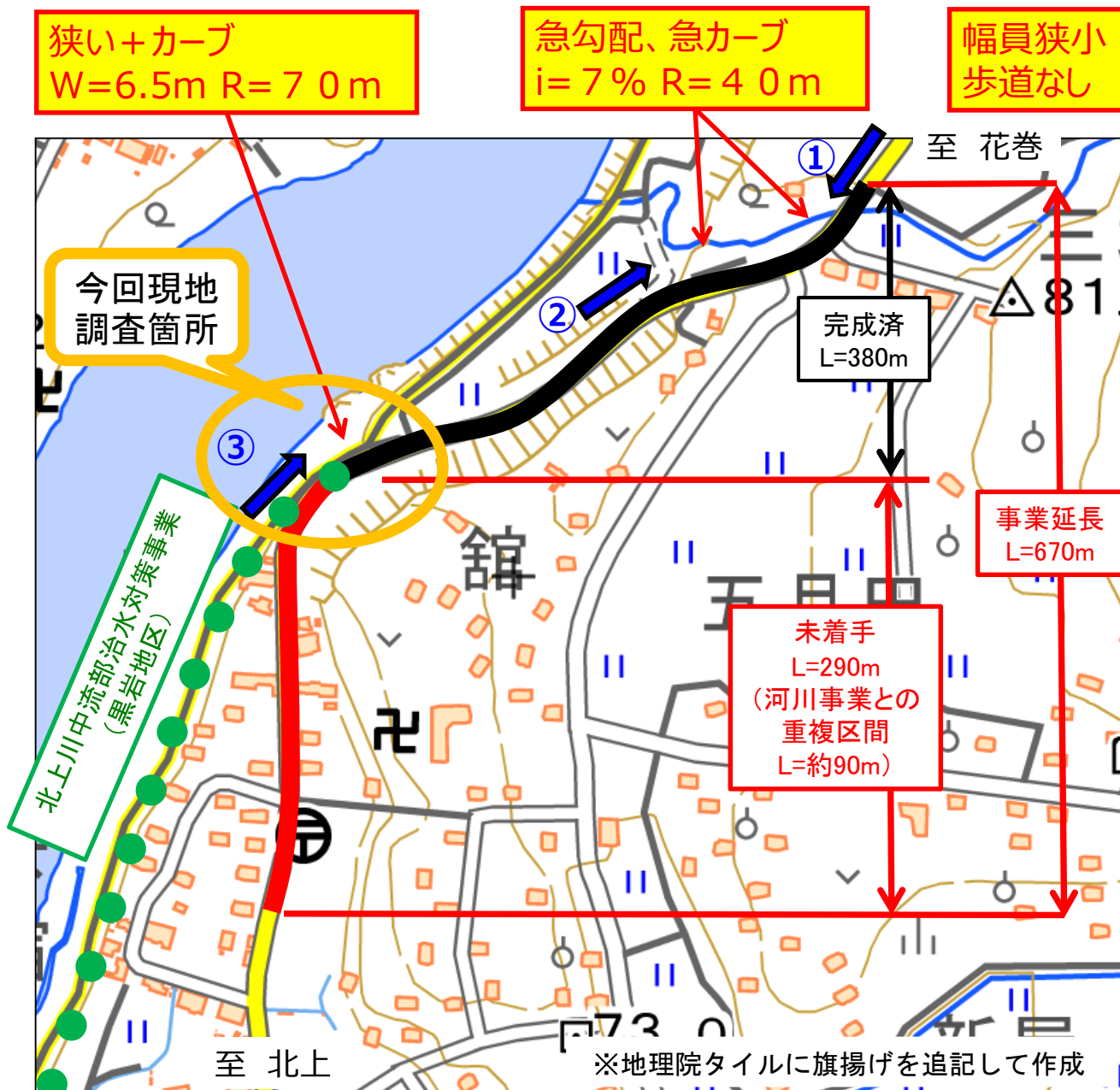
①急勾配、急カーブ



②急勾配、急カーブ



③狭い+カーブ

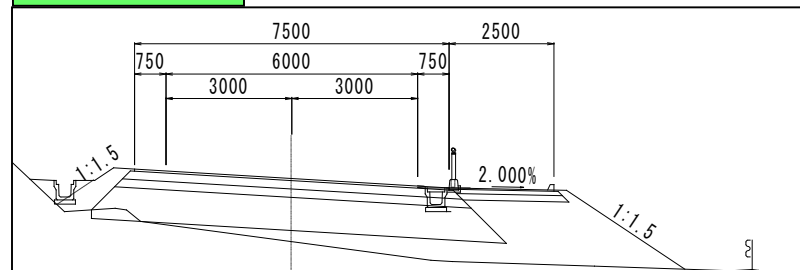


事業概要③（進捗状況等）

(1) 計画概要

計画延長：670m
歩道設置延長：600m
計画幅員：6.0（10.0）m 片側歩道

標準横断面図



(2) 整備効果の発現状況

・全体計画670mのうち380mは整備済みであり、一部区間において通行の安全性・快適性が向上。

[整備済区間]



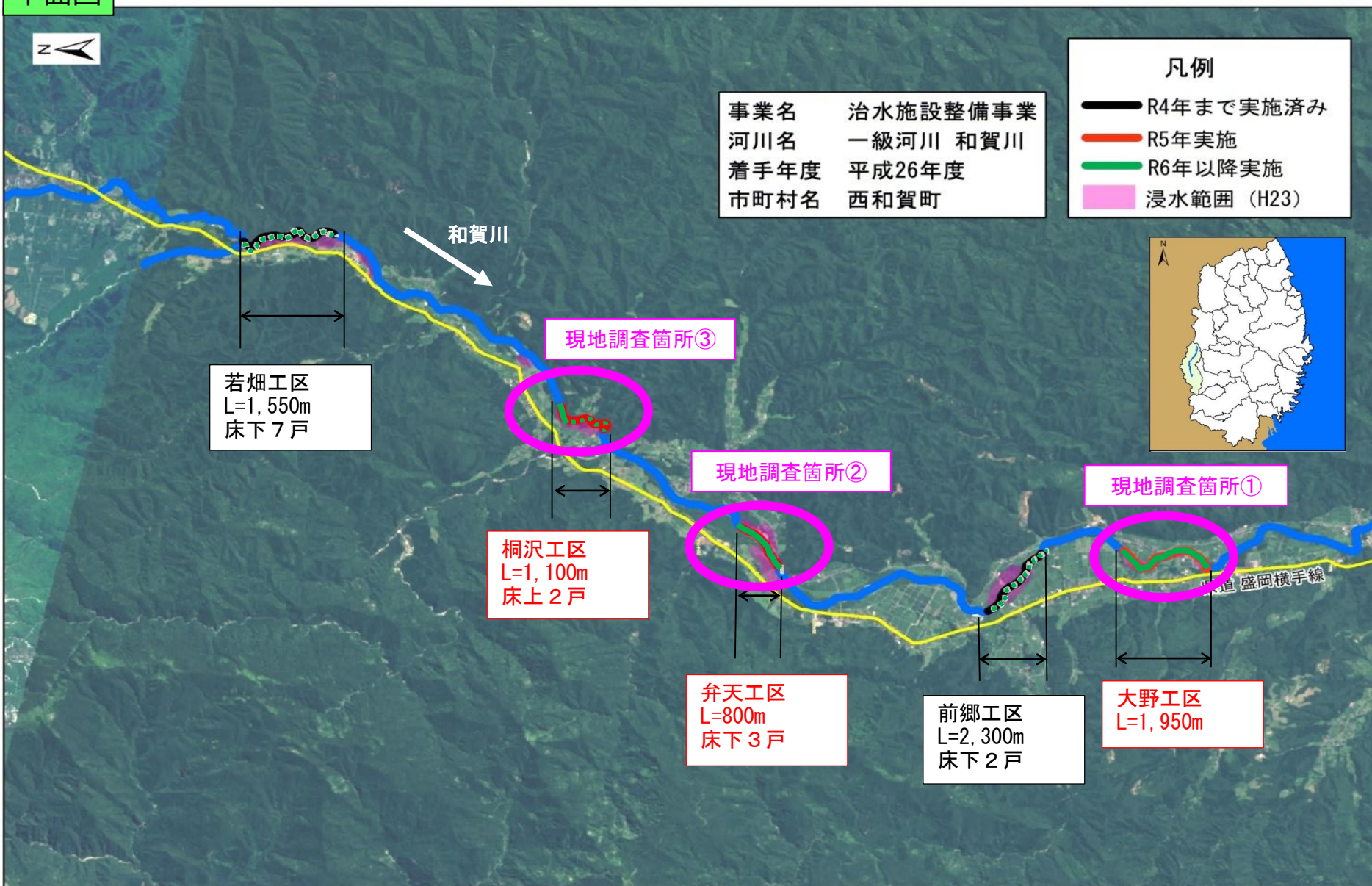
公共事業再評価
現地調査説明資料

和賀川治水施設整備事業

令和5年8月1日
岩手県県土整備部河川課

事業箇所平面図

平面図



出典：国土地理院ウェブサイト(撮影時期2016年7月～10月)

各工区の事業概要と整備効果（大野工区）

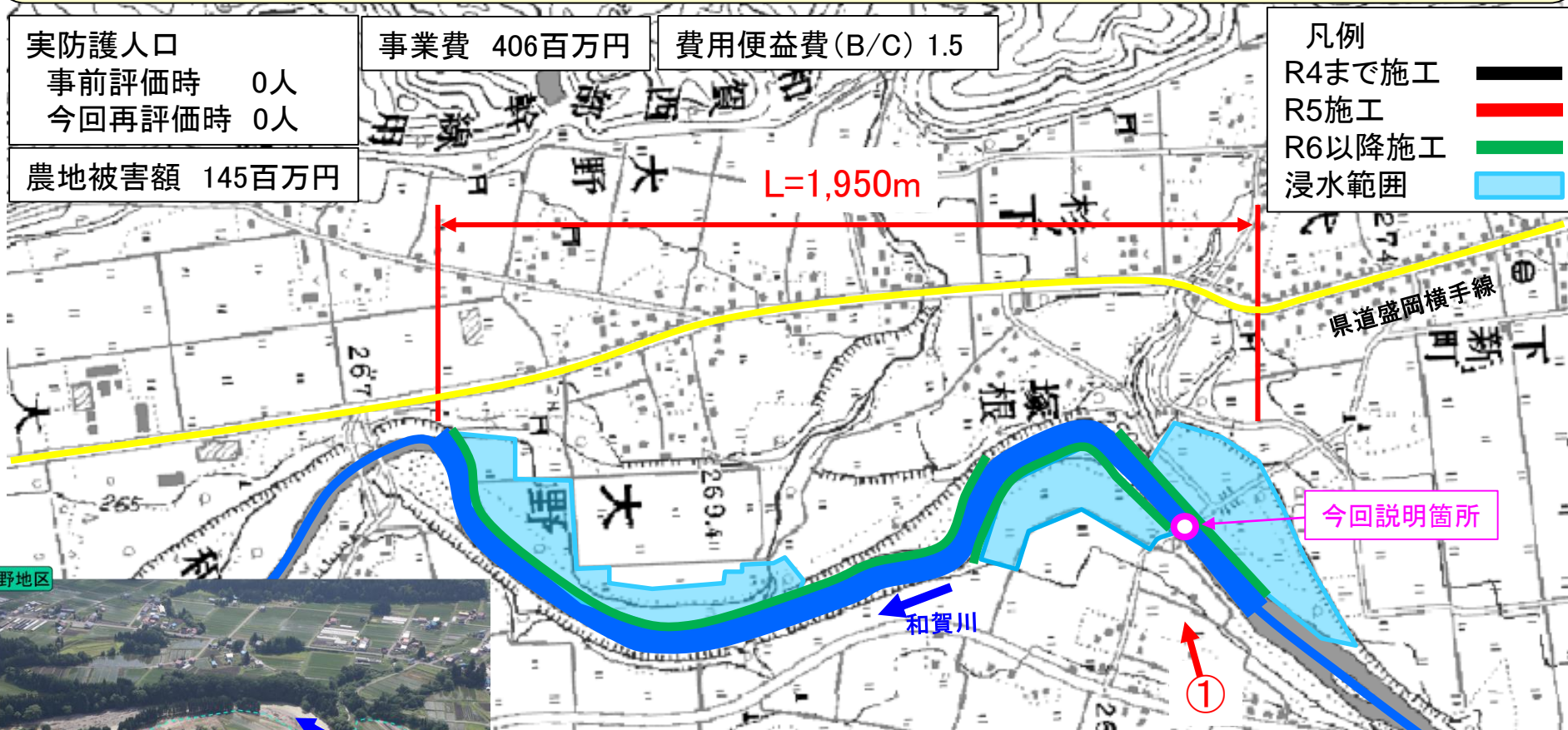
現地調査箇所①

平成23年6月洪水と同規模の出水に対する上流工区の流下能力確保に伴い、当該工区に係る浸水被害が拡大することから、河道掘削及び築堤等の整備を実施し、農地の浸水被害を防止するもの。

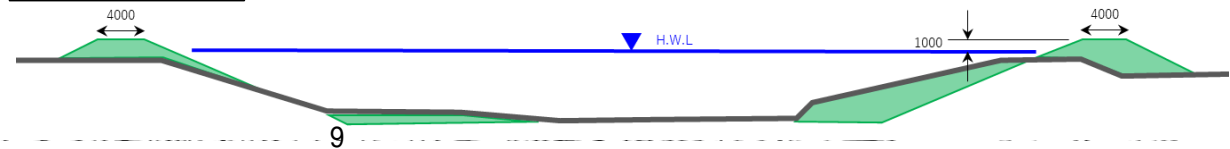
実防護人口	
事前評価時	0人
今回再評価時	0人
農地被害額	145百万円

事業費	406百万円	費用便益費(B/C)	1.5
-----	--------	------------	-----

凡例	
R4まで施工	
R5施工	
R6以降施工	
浸水範囲	



標準横断図



各工区の事業概要と整備効果 (弁天工区)

現地調査箇所②

河道掘削及び築堤等の整備により、平成23年6月洪水と同規模の出水に対し、家屋や農地、町道の浸水被害を防止するもの。

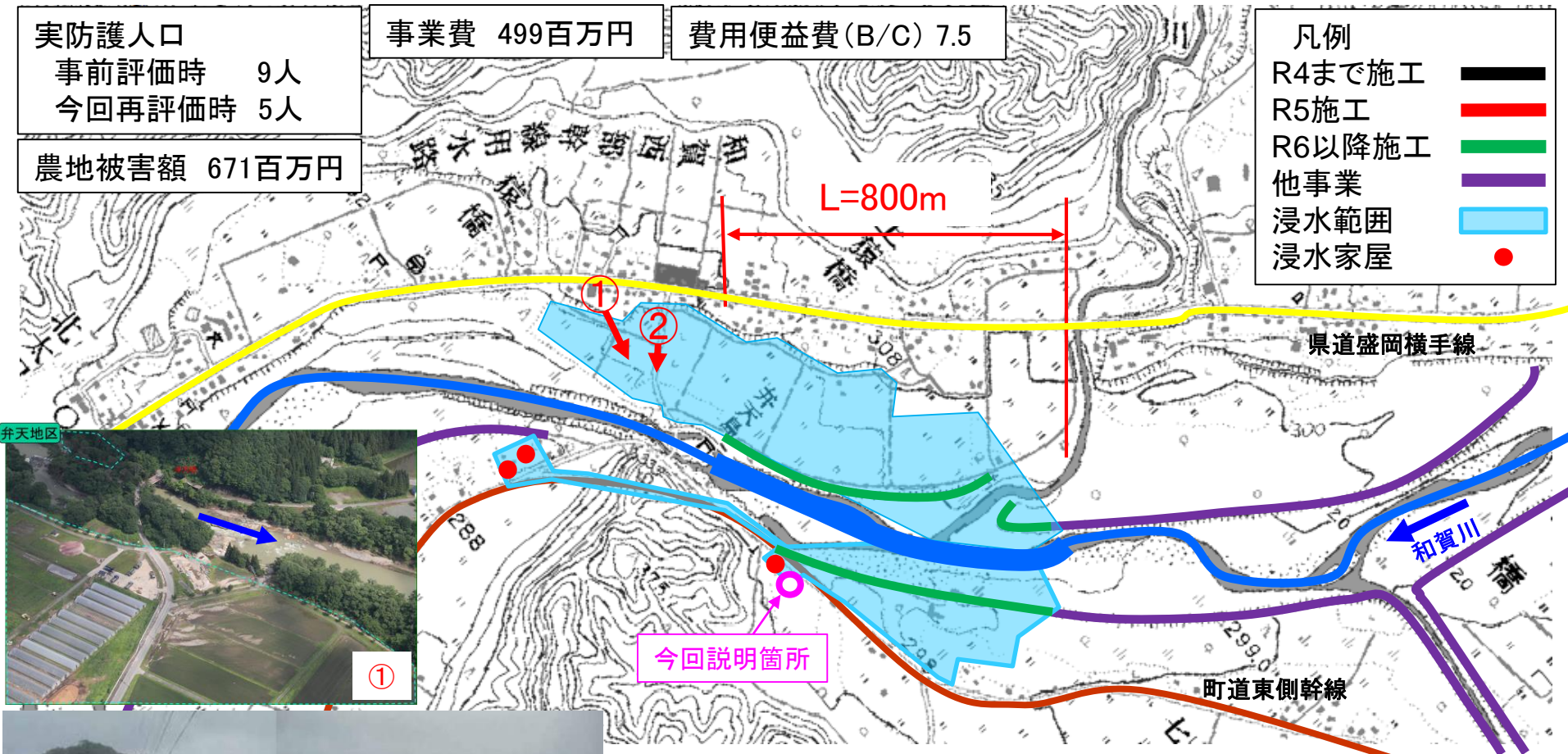
実防護人口
事前評価時 9人
今回再評価時 5人

事業費 499百万円

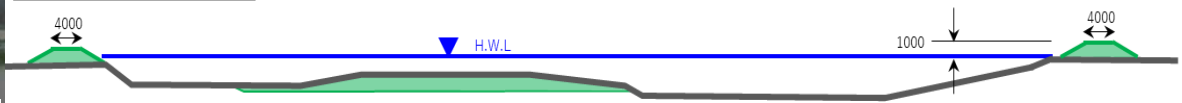
費用便益費(B/C) 7.5

農地被害額 671百万円

- 凡例
- R4まで施工
 - R5施工
 - R6以降施工
 - 他事業
 - 浸水範囲
 - 浸水家屋



標準横断面図



河道掘削及び築堤等の整備により、平成23年6月洪水と同規模の出水に対し、家屋や農地の浸水被害を防止するもの。

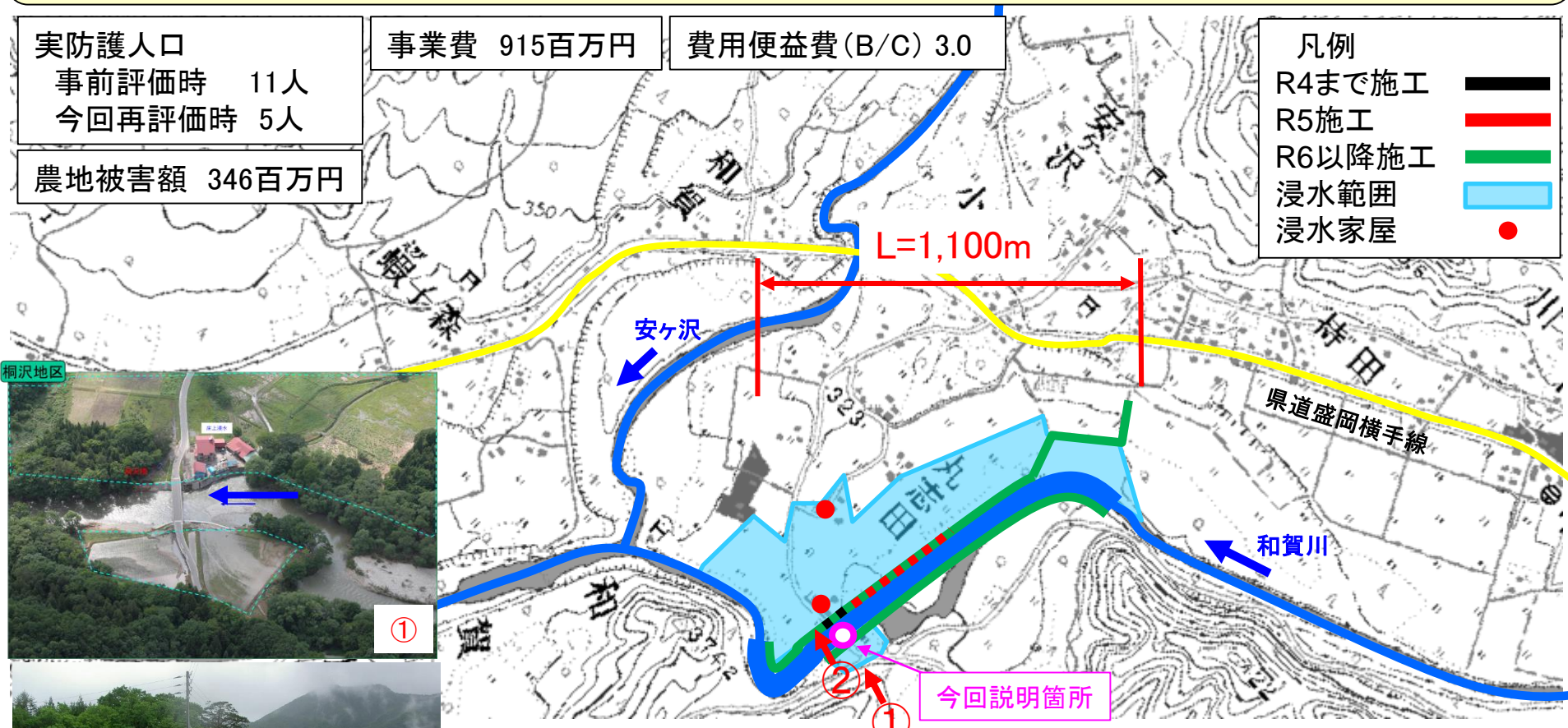
実防護人口
事前評価時 11人
今回再評価時 5人

事業費 915百万円

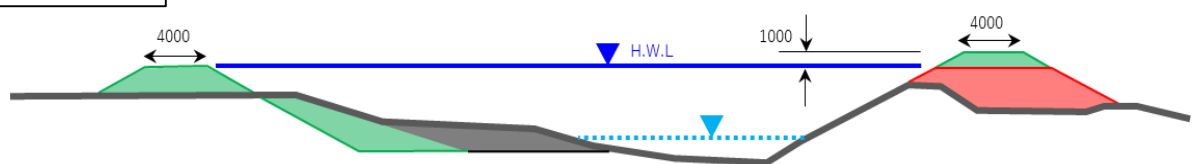
費用便益費(B/C) 3.0

農地被害額 346百万円

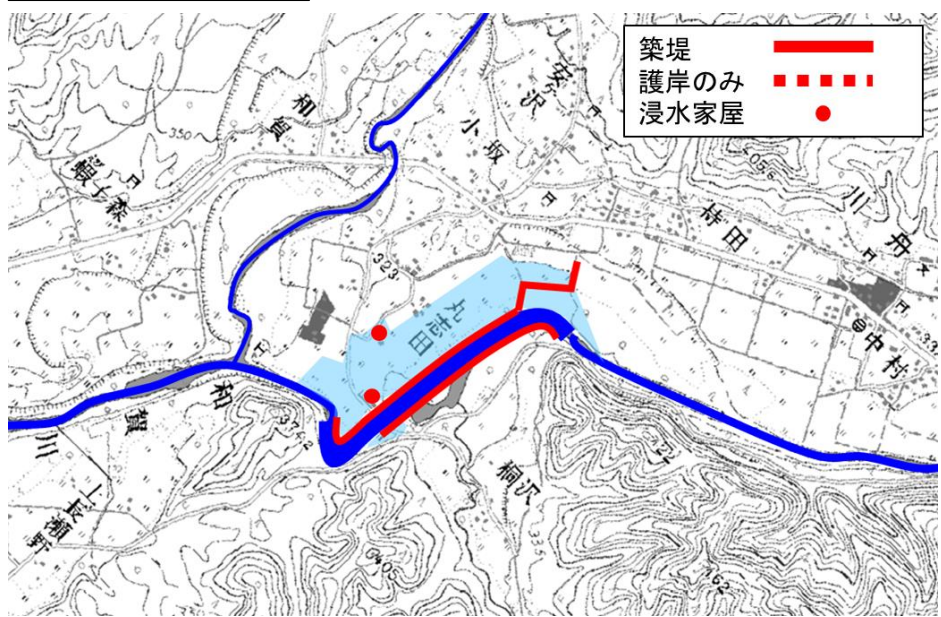
- 凡例
- R4まで施工
 - R5施工
 - R6以降施工
 - 浸水範囲
 - 浸水家屋



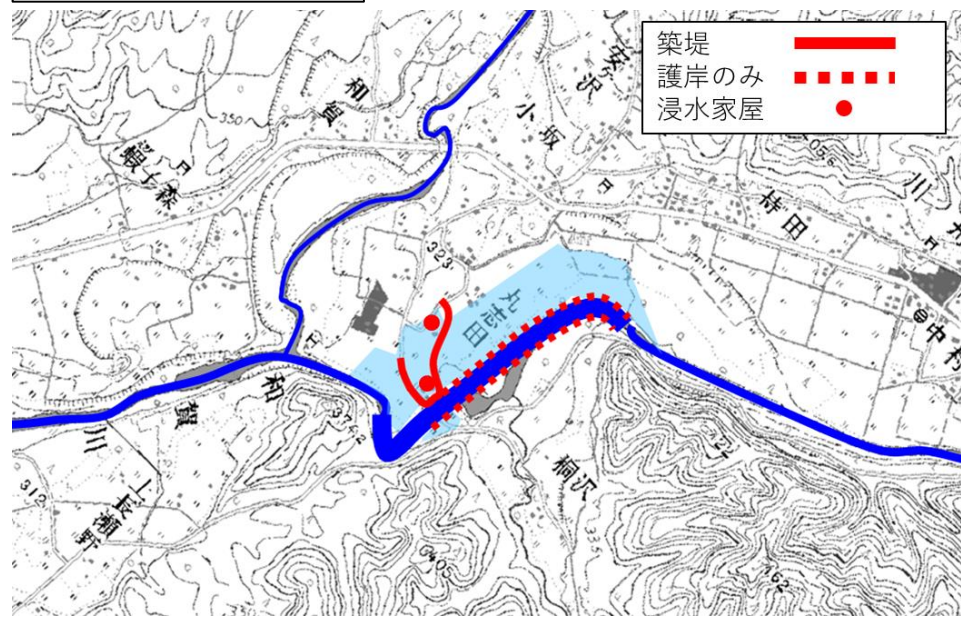
標準横断面図



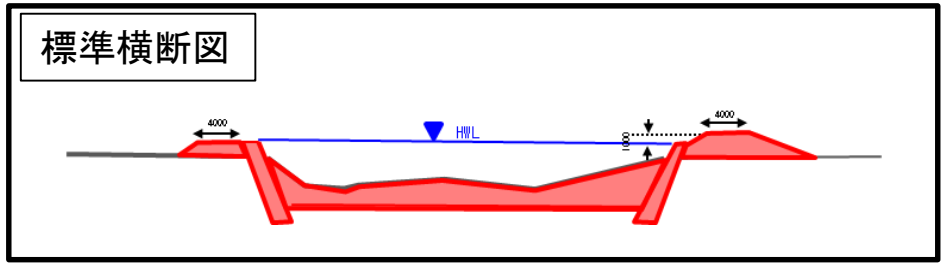
築堤+河道掘削



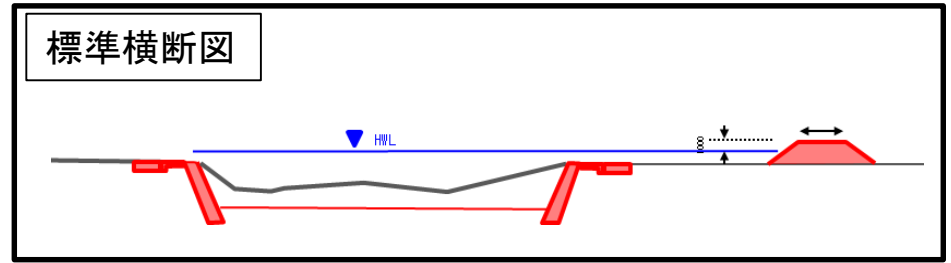
輪中堤+河道掘削



標準横断面図



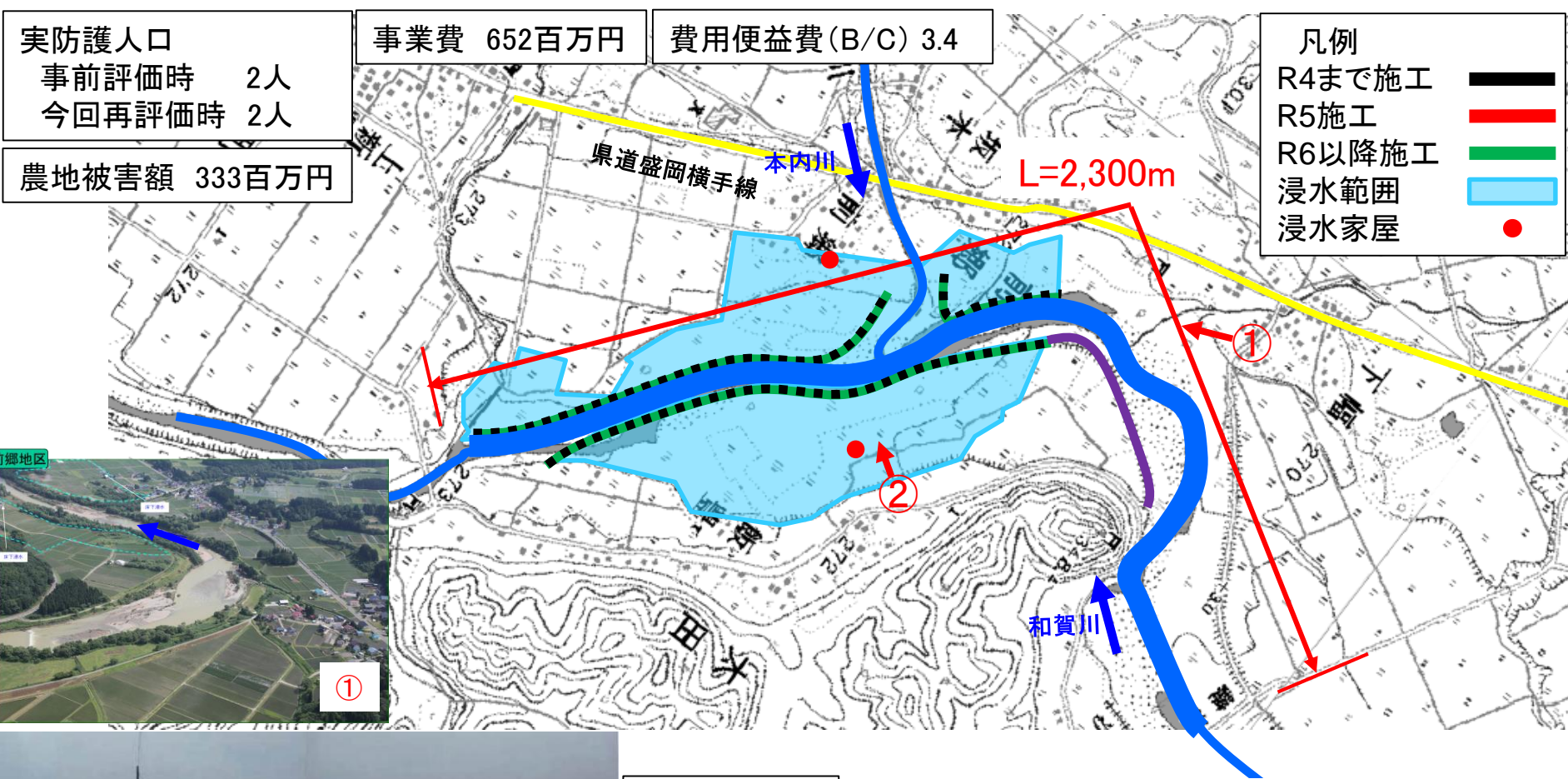
標準横断面図



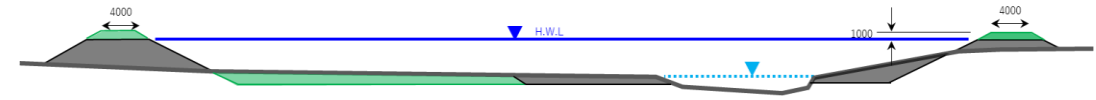
各工区の事業概要と整備効果（前郷工区）

参考資料

河道掘削及び築堤の整備により、平成23年6月洪水と同規模の出水に対し、家屋や農地の浸水被害を防止するもの。



標準横断面図



各工区の事業概要と整備効果（若畑工区）

参考資料

河道掘削及び築堤等の整備により、平成23年6月洪水と同規模の出水に対し、家屋や農地、県道等の浸水被害を防止するもの。

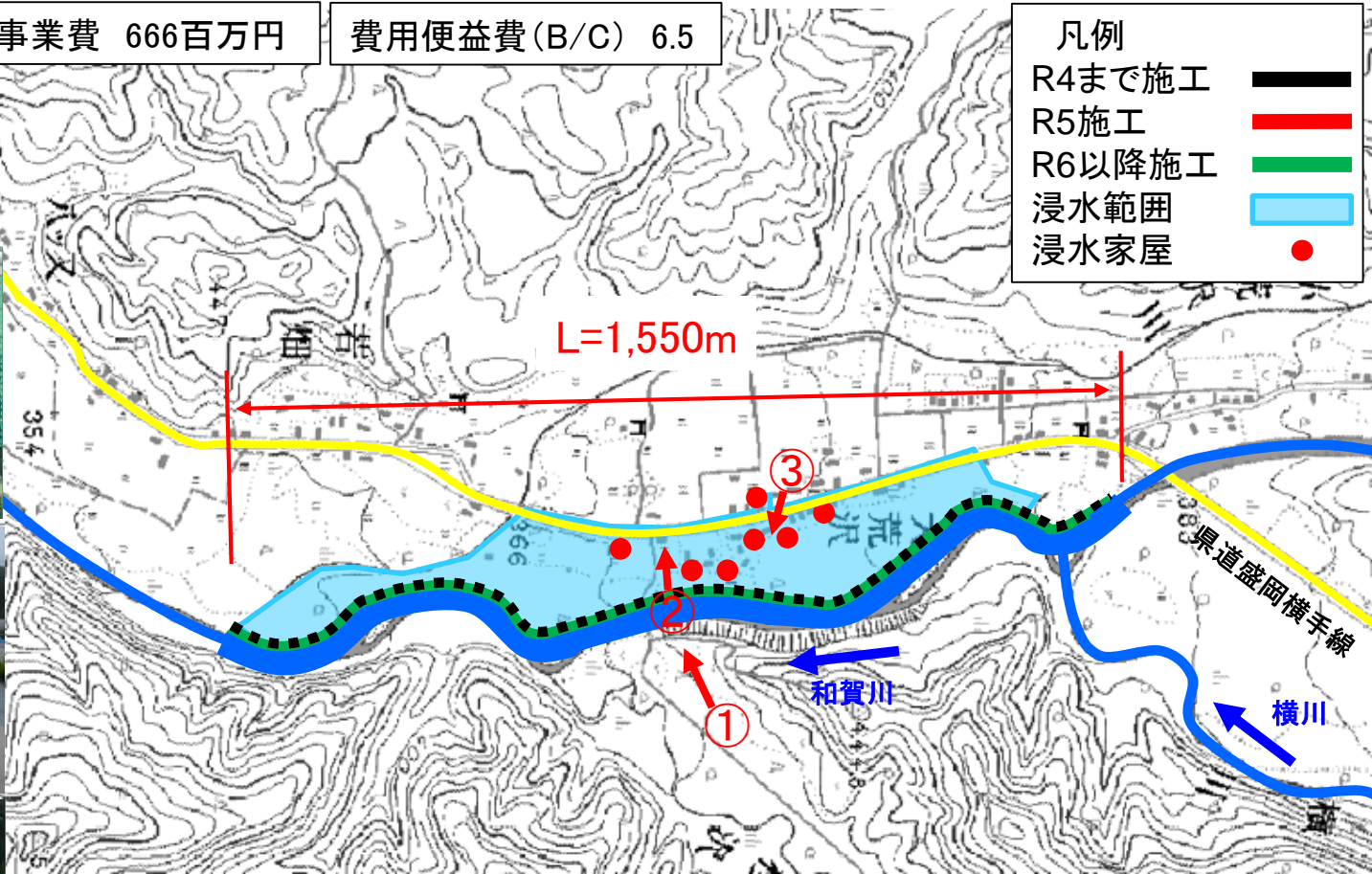
実防護人口
事前評価時 13人
今回再評価時 8人

事業費 666百万円

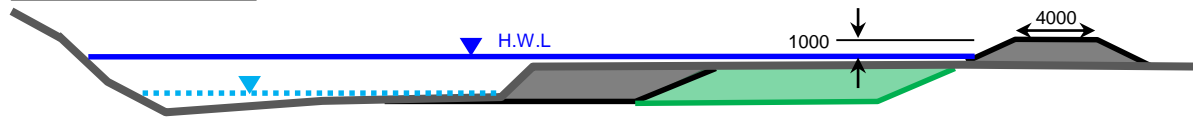
費用便益費(B/C) 6.5

農地被害額 434百万円

凡例
R4まで施工 黒線
R5施工 赤線
R6以降施工 緑線
浸水範囲 水色
浸水家屋 赤丸



標準横断面図



令和5年度公共事業評価専門委員会現地調査対象事業の審議概要

1 地域連携道路整備事業（地域密着型） 主要地方道花巻北上線黒岩（北上市）

質疑等の概要	
専門委員からの質疑等	事業担当課等の対応（回答）
① 第1回専門委員会 将来交通量が、前回評価時（H30）からあまり変化がない中で、時間短縮便益が増加している要因は。また、拡張便益が3便益を上回っているのはどういうことか。	【道路建設課】 時間短縮便益の増加理由は、便益算定マニュアルの改訂に伴い、便益の原単位が増加したためである。また、拡張便益については、前回評価時から便益項目や原単位の変更に伴う増加である。
② 第1回専門委員会 時間短縮便益について、前回評価時（H30）に、幅員の拡幅によって走行速度が上昇するためという説明があったと思う。その際、測定区間の法定速度を超えた走行速度で算定しているということだったが、今回も評価方法に変更はないか。	【道路建設課】 改良前後の設計速度の差を用いて便益を算定しており、評価方法に変更はない。
③ 第1回専門委員会 用地交渉はすでに終わっているのか。	【道路建設課】 用地交渉は現在も継続している。
④ 第1回専門委員会 河川事業との連携の経緯と理由について、説明して欲しい。	【道路建設課】 第2回専門委員会にて説明 県の道路事業開始時点（平成21年）では、当該地区に係る国の河川事業は具体化していないため連携には至っていない。 その後、道路設計を進めている過程で、平成23年頃に国の河川事業が具体化し、県道が北上川に近接する付近において、道路と堤防が重複することとなったことから、相互の設計や用地補償等を連携して進めているところ。
⑤ 第2回専門委員会 国の河川事業では、花巻市側の護岸整備も当初計画されていたようだが、なぜ県が単独で整備することとなったのか。	【道路建設課】 当初は、道路の縦断勾配がそれほど高くない位置に検討されていたため、洪水が及ばないように山付けの位置まで堤防を上げる必要があったが、道路の縦断勾配を上げることで、より高い位置に堤防が取りつく計画となったため、堤防の終点位置が変わったものである。
⑥ 第2回専門委員会 環境等への配慮に要する経費として、再生砕石を使用した金額が記載されているが、これは再生砕石を使用したことでプラスでかかった経費ということか。	【道路建設課】 これは再生砕石を使用した実経費であり、掛かり増し経費ではない。
⑦ 第2回専門委員会 別な事業では、再生砕石の使用によりコスト縮減が図られた事例もあるようだが、この事業ではどうなのか、説明して欲しい。	【道路建設課】 <u>次回以降の委員会で説明する。</u>

⑧	<p>第2回専門委員会</p> <p>拡張便益について、⑤大型車すれ違い困難箇所の解消便益、⑥歩行の安全性・快適性の向上便益は、両方とも住民の支払い意思額（CVM）によって算定されているが、住民の意識調査の対象範囲は。</p> <p>また、CVMへの係数である、⑤の「受益者数」、⑥の「影響範囲面積」は、どのように設定しているのか。</p>	<p>【道路建設課】</p> <p>支払い意思額（CVM）は、「道路投資の評価に関する指針」を参考として算定している。対象範囲については、東北などの地域性の設定は特にならない。</p> <p>大型車すれ違い困難等の受益者数は、簡便的な算定として、日常的に利用する世帯が1日1往復するというを想定し、予測交通量の2分の1としている。</p> <p>安全性の影響範囲は、歩道整備区間延長 600m、幅 50mを支払い意思の影響範囲面積としている。</p> <p>具体的な算出方法については、<u>次回以降の委員会で説明する。</u></p>
---	---	---

2 治水施設整備事業 一級河川和賀川 大野・内ノ沢～若畑（西和賀町）

質疑等の概要		
	専門委員からの質疑等	事業担当課等の対応（回答）
①	<p>第1回専門委員会</p> <p>残土の処分地は確定しているのか。</p>	<p>【河川課】</p> <p>相当なボリュームの掘削工事となっており、処分地を一気に選定することが困難な状況である。着工分について、その都度処分地を調整しながら進めている。</p>
②	<p>第1回専門委員会</p> <p>事業に関する評価指標の防護人口が、事業着手時（H26）の102人から今回評価で36人と3分の1程度に減少しており、いずれ0人になるのではないかという勢いで人口減少している中で、事業期間が10年延長となるが、代替案の可能性は本当に無いのか。</p>	<p>【河川課】</p> <p>河川の沿線には住宅や農地もあり、洪水が発生すると浸水被害が発生する恐れがある。断面確保を地域と調整して進めているところであり、事業費の増大はあるものの着実に進捗していることから引き続き河川改修が得策と考えている。</p>
③	<p>第1回専門委員会</p> <p>未着手区間に防護人口が何人いるのか検証し、残土処分費用の増大に対して、移転費用補償や輪中堤などの代替案が無いのか、説明して欲しい。</p>	<p>【河川課】 第2回専門委員会にて説明</p> <p>各工区における事前評価時と今回評価時の実防護人口、農地被害額事業費、B/Cの状況について資料で説明。</p> <p>桐沢工区において、「輪中堤＋河道掘削」の代替案の可能性を検討したが、コストや地域の経済活動への影響等を総合的に比較し、現在の「築堤＋河道整備」が妥当と判断した。</p> <p>なお、移転費用補償については、公共事業を進めるにあたって支障が生じる場合にはあり得るが、浸水を理由としてそこから住居移転させる制度は治水対策には無い。</p>
④	<p>第2回専門委員会</p> <p>これまでの農地の利用の変遷について、説明して欲しい。</p>	<p>【河川課】</p> <p><u>次回以降の委員会で説明する。</u></p>

⑤	<p>第2回専門委員会</p> <p>輪中堤の代替案の検討に関する人口分布等について、説明して欲しい。</p>	<p>【河川課】</p> <p><u>次回以降の委員会で説明する。</u></p>
⑥	<p>第2回専門委員会</p> <p>若畑工区の浸水範囲の中に主要地方道盛岡横手線があると思うが、もしここが浸水した場合、迂回が発生する可能性があるが、この事業によってそれが回避されるといった効果があると思われるが、B/Cの算定にあたっては便益に計上されているのか。あるいは定性的に評価しているのか。</p>	<p>【河川課】</p> <p>一般資産の被害ではないため、この事業の便益には計上していない。定性的に評価している。</p>
⑦	<p>第2回専門委員会</p> <p>各工区の平成23年6月豪雨の浸水範囲と想定浸水範囲シミュレーションの比較について、説明して欲しい。</p>	<p>【河川課】</p> <p><u>次回以降の委員会で説明する。</u></p>
⑧	<p>第2回専門委員会</p> <p>弁天工区で2軒浸水しているところは、道路を伝わって浸水しているようだが、これは道路の雨水枡等の改修工事に対応できるのかとも考えられるが、河川事業で対応することとしたのはなぜか。</p>	<p>【河川課】</p> <p>山のところがトンネルの形状になっていたため、上流で溢れた洪水がトンネルを通過して下流へ浸水に至ったもの。この上流側の河道断面を拡げて水位を下げることによって浸水を防止していく必要がある工区であると判断した。</p>
⑨	<p>第2回専門委員会</p> <p>このトンネルの浸水深や冠水していた時間などの状況について、説明して欲しい。</p>	<p>【河川課】</p> <p><u>次回以降の委員会で説明する。</u></p>
⑩	<p>第2回専門委員会</p> <p>当初の残土処理予定地はどこを想定していたのか。</p>	<p>【河川課】</p> <p>弁天工区の近傍にある西和賀町の残土置場で、平均距離として大体5.5kmのところである。</p>
⑪	<p>第2回専門委員会</p> <p>当初の残土処理予定地の敷地面積や、どのように状況が変わって約49.5km先となったのか、説明して欲しい。</p>	<p>【河川課】</p> <p><u>次回以降の委員会で説明する。</u></p>